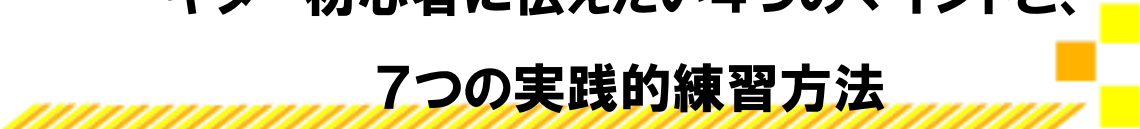


**ギター初心者に伝えたい4つのマインドと、
7つの実践的練習方法**



鈴木雄太

■はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

もくじ～

■	ごあいさつ	4
■	第1章：初心者の壁を越えよう マインド編	7
	（1）才能は関係ない	7
	（2）手が小さいから、ギター向きじゃない	9
	（3）リズム感がないから・・・	10
	（4）使うところには使おう	12
	まとめ	14
■	第2章：初心者の壁を越えよう 練習編	15
	（1）鏡を見よう	15
	（2）立って弾くことに慣れよう	17
	（3）自分の演奏を客観的に聞こう	18
	（4）メトロノームを使おう	19
	（5）好きなギタリストをもっと知ろう	20
	（6）1日10時間の練習より・・・	21
	（7）自分に合った練習曲とは？	23
	まとめ	26
■	おわりに	27

■ごあいさつ

こんにちは、鈴木雄太です。

この度は、当レポートをダウンロードしていただき、
どうもありがとうございました。

初めての方も多いと思いますので、
まずは簡単に自己紹介をさせていただきますね。

1982年3月6日生まれで、
このレポートを書いている現在28歳になります。

ギターを始めたのは中学2年の頃だったので、
かれこれギター歴14年ほどです。

高校卒業後、東京の某音楽学校に進学したのですが、
その頃は「速弾きできないヤツなんてギタリストじゃない！」って勢いで
メタル系の難しいテクニックばかり練習していました。

在学中にアドリブの勉強として聞いたブルースにハマリ、
それからはテクニックに全く関心がなくなり、
ブルース系の音楽ばかり弾くようになりました。

ちなみに今好きなギタリスト、バンドは

ジミヘンドリックス・スティーヴィーレイヴオン、オールマンブラザーズ、
BBキング、バディガイ、ザックワイルド、エリックジョンソン、スラッシュ、
エリックサーディナス、ロバートジョンソン、ブラインドブレイク・・・

ブルース系を中心にストレートなロックが好きな傾向にあります。

もちろん、過去に死ぬほどコピーした
ポールギルバートやジョーサトリアーニ、ヌーノベッテンコートなども
未だに好きですよ。

ギター初心者伝えたい4つのマインドと、7つの実践的練習方法

要はカッコよければ何でもいいって感じです（笑）

そんなこんなで音楽学校時代にブルースにハマリ、
学校を中退して単身 NY に渡米しました。

最初は週2回ほどのオープンマイク（ジャムセッション）に参加しつつ、
地元のセミプロたちと交流を深めていきました。

結局 NY には2年ほどいたのですが、
後半1年はほぼ週5ペースでライブしていたと思います。

そして帰国後は自分でバンドを組みながら、ギター講師に。

その時にオンラインギター講座のような HP を作ったのですが、
そちらの方が忙しくなってきました、
現在はオンラインでの活動がメインになっています。

オンライン上にアップしている講座はこちらから見れますので、
良かったら遊びにきてくださいね。

[ギター初心者でも楽しく上達するギター講座](#)

中には有料のものもありますが、大半は無料で公開していますし、
登録後勝手に請求書が届くなんてこともないので
安心して活用してください（笑）

このオンライン講座を始めてからちょうど2年経つのですが、
嬉しいことに、

「市販の教則よりも遥かにわかりやすい」

「質問すると、とても的確なアドバイスが返ってきて助かる」

このような意見をたくさんいただくようになりました。

ギター初心者伝えたい4つのマインドと、7つの実践的練習方法

たぶん、僕のアドバイスがわかりやすいのは、
“僕にギターの才能が全くなかったから”だと思います。

今でこそ偉そうに教える立場にいる僕ですが、
他の人があっさり出来ることでも、
「気づいたら弾けるようになってた」みたいな記憶がほとんどありません。

大体どんな質問を頂いても、
「ああ～ 僕も全く同じことで悩んでいたよ」みたいなことばかりなのです。

だからこそ、当時の自分を思い出しながら、
「このような練習をしたら弾けるようになったよ」と
アドバイスが出来るのだと思います。

ギターを始めた当時、僕の周りにギターを教えてくれる人がいなかったので、
ひたすら練習量でカバーしてきました。

恐らく、今思えばものすごく非効率的な練習をしていたかもしれません。

ですが、僕のHP やこのレポートを知ったあなたには
僕のように遠回りせず、効率的に上達していつてもらえたらと願っています。

ギターは目に見える上達を感じられる時が一番楽しいですので、
ぜひこのレポートやHP を活用して、
楽しくギターを弾き続けてくださいね。

このレポートが少しでもそのお役に立てれば嬉しいです。

いきなり最後の挨拶みたいになってしまいましたが、
ここからが本題です。

では行ってみましょう！！

■ 第1章: 初心者の壁を越えよう マインド編

この章では、初心者の方が勘違いしがちなことや
悩みについてお話していこうと思います。

テクニク的なことはありませんが、

“全然上達しないから、ギターは向いてないんじゃないか・・・” みたいな
悩みを持っている方には参考になるはずですよ。

では早速行ってみましょう

(1) 才能は関係ない

「自分は周りの人に比べ、上達がかなり遅いので
ギターの才能がないような気がします」

このようなメールを頂くことがあります。

この質問に対する僕の考えは、こうです。

「もしあなたに全く才能がなかったとしても、
あなたの弾きたい曲を自由に弾けるくらいのレベルにはなれます」

僕が考えるギターの才能とは、

- ・オリジナリティのあるギタープレイ（フレーズ）を作り出せる
- ・オリジナリティのあるニュアンス（ピッキングやトーンなど）を出せる

このようなものであって、

テクニク的なものに関してあまり才能は必要ないと思っています。

例えば速弾きで有名なイングヴェイマルムスティーンという人がいます。

彼は尋常でない速さで弾くので、
「天才だ！」と思うかもしれません。

でも、イングヴェイの曲を完コピできる人は
たくさんいるのです。

※完コピ＝ミスなく、音源と全く同じように弾くこと

イングヴェイのようなプレイを自分でイチから作り出すには
才能が必要かもしれません。

でも、イングヴェイが弾いた超絶プレイを真似するには
才能なんかよりも努力の方が大切なのです。

オンライン上で一緒に教材などを作っている原田という男がいるのですが、
彼はそれこそ弾けない曲はないというほど抜群なテクニックを持っています。

[原田の演奏動画はこちら](#)

でも、彼はたった1曲をマスターするために
2年半以上ひたすらそれだけを練習していた時期もあったのです。

つまり、僕が言いたいのは、

**“才能の無さに悩むのは、
オリジナリティを追求する上級者になってからで十分。
初心者のうちはとにかく練習あるのみ！”**

ということです。

ちょっと強引な言い方かもしれませんが、
練習すれば本当に弾けるようになるものなんですよ！

(2)手が小さいから、ギター向きじゃない

「他の人に比べて手が小さいので、上手く届きません。
こんな私でもちゃんと弾けるようになりますか？」

このような質問をよく頂きます。

これはフォームが悪いという理由があったりするのですが、
とにかく**手が小さくてもギターは弾けます。**

(小学校低学年並の大きさなら、
さすがに通常サイズのギターはキツイかもしれませんが)

僕が大好きなギタリストに、
ジャンゴ・ラインハルトというギタリストがいます。

伝説的なジャズギタリストですが、
彼は18歳の頃、手に火傷を負い左手の薬指と小指が動かなくなります。

つまり、残りの指3本で演奏していたのです。

[ジャンゴの映像はこちらから見れます。](#)

手が小さいとか以前の問題ですよ。

でも、彼はそんなハンディを乗り越えて
超一流のジャズギタリストになります。

なかなか上手く押さえられなくて悩んでいた頃の僕に
勇気をくれた実話を紹介してみました。

僕もそれほど手が大きい方ではありませんが、
自分の手の小ささを呪う前に、
まずは正しい押さえ方を身につけましょう！

(3)リズム感がないから・・・

「私にはリズム感がないのか、
すぐにCDとズれてしまいます」

それほど頻度は多くないですが、
たまにこのような質問を頂きます。

まず、

「リズム感＝先天的なもの（持って生まれたもの）」

このように思っている人が多いと思いますが、
これはある意味正解で、ある意味不正解だと思います。

例えばジェームス・ブラウンとそのバンドのように、
「このノリは日本人には出せないよ～」ということがあるのは事実です。

たぶん、ジェームス・ブラウンも努力したとは思いますがね。

ですので、

「黒人のようなリズム感を出したいのですが、
どうすればいいのでしょうか？」

このような質問を頂いても、
僕には答えることができません。

ただ、今まで一度もこのような質問を頂いたことはなく、
リズム感についての質問は全て

- ・ CD とズれる
- ・ バンド内で、いつも自分だけ速くなる（遅くなる）

このような類のものなのです。

それなら、解決策はあります。

- 1、メトロノームを鳴らし、ひたすらそれに合わせて弾く
- 2、バンド練習、CDに合わせる時は、自分の演奏に集中し過ぎず必ずドラムの音を意識して聞く
- 3、自分の演奏を録音し、毎回リズムチェックする

この3つに取り組みれば、
CDに合わせて弾けるようになります。

僕も以前、ライブでハシリまくる傾向があり、
ベーシストに注意されて直しましたから（汗）

※「ハシる＝速くなる」 逆に遅くなることを「モタる」と言います。

ですので、リズム感がないのではなく
一定のテンポで弾くスキルがないのだと思います。

スキルなら訓練すれば磨くことができますから、
安心してください。

ジェームス・ブラウンのリズム感に憧れている場合は、

...

一緒に頑張りましょう！
（僕もそんなリズム感がほしいです）

(4)使うところには使おう

今はインターネットを使えばタブ譜やギター講座など、多くのものを無料で見ることができます。

それは便利でとても良いことですが、
無料に拘るあまり、上達が遅くなっている人が多いように感じます。

例えばタブ譜。

無料で配布しているタブ譜は、

- ・コード進行しか載っていないもの
- ・ポジションが書いてあるだけで、弾き方が書いてない

このような簡易的なものがほとんどです。

例えばC⇒F⇒Gというコード進行だけ書かれていたら、
自分が知っているコードフォームを押さえると思います。

でも同じCコードでもたくさんのフォームがあるので、
原曲が必ずしもあなたの知ってるフォームで弾かれているとは限りません。

ピッキングもストロークかもしれませんし
アルペジオかもしれませんよね？

つまり、あなたの知っている範囲内でのプレイしかなくなるので、
いつまで経ってもそれ以上のことは学べないのです。

弦なんかでも同じことが言えます。

セット弦は500円以上しますし、頻繁に替えていては結構大きな出費になります。

でも、錆びた弦で練習してはフレットにダメージがかかりますし、いざ新品の弦で弾くとかなりの違和感があるはずですよ。

もちろん、節約できる部分は節約するに越したことはありません。

弦はネットで探すと安いものがありますし、バンドスコアはオークションなどで中古を探せば安く手に入ることもあるでしょう。

友達に借りてコピーするのもアリですよ。

でも、どうしても必要なものには惜しまずにお金を出しましょう。

それが効率的な上達に繋がりますよ。

まとめ

以上で第1章、マインド編は終りになりますが、いかがだったでしょうか？

“才能は必要ない”
“手が小さく手も弾ける”
“リズム感は養える”
“必要なものにはお金を掛けよう”

このようなことをお話してきたわけですが、何かしらの気付きなどがあれば嬉しいです。

ちなみに最初の3つは励ましの言葉のような感じになりましたが、これは単に励ましているのではなく、僕が心からそう思っていることです。

最初から“自分には無理”と諦めるのではなく、
“どうすれば弾けるようになるのか？”を考えて練習してみてください。

そうすれば必ずあなたにもギターが弾けるようになります。

最初は誰でもFも上手く押さえられないような初心者から始まるのです。

言い方を変えると、初心者の頃は
「弾けないことが多い＝明確な課題が多い」とも言えます。

中級くらいになってくると、何を練習すればいいのかわからなくなってきたりするものです。

ですので、明確な課題を1つずつクリアする喜びを感じながら、楽しく練習に取り組んでくださいね！

■ 第2章:初心者の壁を越えよう 練習編

この章では、日々の練習で心がけてほしいことをお話します。

と言っても、

「コードの押さえ方」「ピッキングのコツ」などではなく、
もっと根本的なことに触れてみたいと思います。

テクニク的なことはこちらのページで動画解説などもしているので、
興味があればご覧になってください。

[ザ・ギタースタイル](#)

上記は会員制サイトとなっておりますが、
無料で登録できますのでご安心ください。

それでは早速第2章、行ってみましょう！

(1)鏡を見よう

野球のピッチャーがフォームをチェックし、修正するように
ギターを弾く上でもフォームがとても重要になってきます。

変なフォームで弾き続けると、
まず肩や首など、体のどこかが痛くなる原因になります。

また、無駄に力が入ってしまい、
ピッキングやフィンガリングにも影響が出てしまう可能性があります。

そこで、時々鏡を見ながら自分のフォームをチェックしましょう。
全身鏡がない場合は、窓に映った自分を見てもいいです。

恐らく自分の頭の中にあるイメージと
実際に弾いている姿の違いに愕然とするはずです。

「え、私ってこんなにカッコ悪い姿勢で弾いてるの？」みたいな（笑）

恐らく、あなたがイメージしていたカッコいい姿とは
好きなギタリストや上手いギタリストの姿だと思います。

では、そのギタリストの姿とあなたの姿はどこが違うのでしょうか？

（ここでの姿とは容姿のことではなく、
ギターを弾くフォームのことですよ。念のため^^ ;)

腕が開きすぎていたり、
ネックを見ようとし過ぎて前かがみになっていたり、
色々違う部分を発見できると思います。

そのような部分に気づいたら
少しずつ修正していきましょう。

徐々にあなたの憧れのフォームに近づいてくるはずですよ。

フォームが綺麗になれば、単純に見た目もカッコ良くなりますし、
無駄のない正確な演奏にも繋がります。

最初は見た目から入っていくことも
重要なことだったりするんですね！

(2)立って弾くことに慣れよう

家にいる時は座って練習する機会が多いと思いますが、同時に立って弾く練習もしましょう。

座って弾くのと立って弾くのでは、ネックや右手、ピッキングの位置や角度が全く違い、当然弾き心地も変わってきます。

**「座ってなら弾けるのに、
立ってみると全く弾けない・・・」**

これはよくあることです。

人前で弾く時も常に座って弾くというのであれば、立って練習する必要はないかもしれません。

でもライブなど、立って弾く機会があるのでしたら、いくら座っている状態で上手く弾けても、立ったまま同じ演奏が出来なければ意味がありません。

なぜなら、ライブ＝本番だからです。

日頃から意識して、立って弾くことに慣れておきましょう。

ちなみにストラップの長さには特に決まりはありません。

**ストラップを長くする＝カッコいいが弾きにくい
ストラップを短くする＝カッコ悪いが弾きやすい**

一般的にこのような傾向がありますが、見た目と弾きやすさの妥協点を見つけてくださいね。

(3)自分の演奏を客観的に聞こう

もしあなたが自分の声を録音して聞いたことがあるのであれば、それまでイメージしていた声との違いに驚いたことがあるでしょう。

「え、これが私の声？」みたいな（笑）

ギターにもこれと同じことが言えます。

自分では上手く弾けたと思っていても、「リズムがバラバラ」「ミストーンが多い」「演奏が雑」「音がしょぼい」など、様々な問題点があるものです。

ですので、自分の演奏は定期的に録音し、客観的に確認しましょう。

もちろん、音声だけではなく動画を撮った方がより自分の問題点が浮き彫りになるのでオススメです。

他人は遠慮して、「お前の演奏ってほんとヘタだよね！」なんてなかなか言ってくれません。

ですので、自分で自分のレベルをしっかり把握し、良いところは自信を持ち、悪いところは修正する必要があります。

まずは自分のことを知る事です。

最初は恥ずかしいものですが、そこはグッと我慢して自分へのダメ出しポイントを見つけてくださいね。

ちなみに自分で聞くことが目的ですので、高価な録音機器などは必要ありません。

携帯電話などでサクッと録ればOKです

(4)メトロノームを使おう

前章でリズム感について触れましたが、
初心者の頃からリズムを意識することをオススメします。

僕の場合、本格的にリズムを意識し始めたのは
ギターを始めて数年経った頃でした。

それまで奏法面にばかり気を取られ、
リズムにはあまり意識が行ってなかったんですね。

そこからリズムを矯正するのはとても大変な作業でした。

今まで簡単に弾けていたフレーズすら一定のリズムで弾けず、
かなりフラストレーションが溜まった記憶もあります。

ですので、初心者のうちから自然とオンタイムで弾けるように
訓練しておくことをオススメします。

その際に必要になってくるのがメトロノーム。

難しいフレーズが出てきたら、
自分のさじ加減でテキトーにテンポを落とすのではなく
きちんとメトロノームを設定して練習するようにしましょう。

また、CDと合わせるのを止めて、
メトロノームだけをバックに1曲弾き切る練習も効果的です。

音楽学校での授業では常にメトロノームを使いましたが、
リズムを意識することはとても大切なことです。

どんなに速いフレーズが弾けても、
リズムがグチャグチャならそれはただの雑音ですからね。

僕も初心者の頃に、誰かに注意してほしかったと今でも思ったりします。

(5)好きなギタリストをもっと知ろう

あなたにも好きなギタリストがいると思います。

そんな好きなギタリストを徹底的に知ることが
上達への道だったりします。

- ・ CD や動画
- ・ 影響を受けた音楽、ギタリスト
- ・ 使用機材
- ・ 演奏スタイル
- ・ プロになる前、どんな練習をしていたのか？

このようなことを研究し
自分も真似してみましょう。

影響を受けたギタリストをドンドン遡っていくと、
その人のスタイルのルーツが見えたりします。

ハードロックギタリストがカントリーに
影響を受けているなんてこともあるので
あなたが普段聞かない音楽に触れるチャンスでもあります。

次々と機材を買うお金がなくても、
研究していくうちに使い方がわかってきたりするものです。

“まずはどのエフェクターを買うべきですか？”

このような質問をよく頂きますが、
好きなギタリストの研究をしていれば自ずと答えが見えてきますよね。

インターネットで検索するとたくさんヒットしますし、
ギター雑誌のインタビューを読むのもいいでしょう。

単純に、好きなギタリストを調べるのは結構楽しかったりしますよ！

(6)1日10時間の練習より・・・

音楽学校に通っていた頃、
ある先生にこのようなことを言われました。

“1日10時間の練習より、1回のライブの方が勉強になる“

当時、僕はギターを優先した生活を送っており、
それこそ時間があればずっと家や学校のスタジオで練習していました。

睡眠時間3時間くらいで
メシ、フロ以外は全部ギターみたいな生活です。

練習内容もちろんですが、特に量を重視していたので、
先生のこの言葉にはあまりピンときませんでした。

「ライブもいいけど、たくさん練習しないと上手くならないでしょ!？」と。

その半年後、NYに行き週5ペースでライブするようになりました。

これは先生の教えを実践したというより
テクニックからセッションに興味に移った結果の偶然でしたが、
今だからこそ、“先生の言ってた通りだなあ”と実感できるようになりました。

確かに、指を速く動かすテクニックなんかは
自宅でも身につけることができます。

でも、それ以上にイチギタリストとしてのスキルは
ライブを通してじゃないと身につけられないと思います。

バッティングセンターではガンガン打てるけど、
実際の試合では全く球に当たらないバッターみたいな感じでしょうか。

感覚的な部分が強いので、具体的にライブをするとどう上手くなるかは説明しづらいものがあります。

当時、先生も詳しく説明してくれませんでしたから。

“ライブやれば速弾きできるようになるぞ！”と言われていたら張り切ってライブしまくっていたと思うんですけどね（苦笑）

ちなみにライブの際は必ずその演奏を録音していました。

そして、音やリズム、プレイなどをチェックして納得いかない部分を探し次のライブで修正するように気をつけていたんですね。

練習⇒ライブ⇒練習・・・とバランス良く取り組んでいくのが早い上達に繋がるのかもです。

単純にライブは楽しいですし。

「自分は初心者だから、まだまだバンドなんて早い」

このように思っている方も多いと思いますが、初心者だからこそもっと上手くなるためにバンドを組む。

そしてライブという目標を作って、それに向かって練習する。

これならモチベーションも上がりますし、楽しく、且つ早く上達できる方法だと思いますよ。

(7)自分に合った練習曲とは？

“自分のレベルはまだこれくらいなのですが、
この曲を練習するにはまだ早いでしょうか？
初心者向けのオススメ練習曲があれば教えてください！”

今まで、数えきれない程
このような質問を頂いてきました。

そこで、僕がいつもしているアドバイスは、
曲を聞いて、自分で弾けるイメージが沸く曲に挑戦しましょう！
ということです。

例えば、速いフレーズがあったとして、
「こんなの速すぎて、どうやって弾いているかわからないよ」

このように感じるのであれば、
恐らくその曲を練習するのはまだ早いのだと思います。

「難しそうだけど、何とかかなりそうだ！」と思えるのが
練習曲としては理想です。

難しい曲になると、
それこそ1年頑張っても全く弾けないものもあります。

初心者の方がいきなりそのような曲に取り組むと、
「やっぱり自分にはギターが向いてないんだ・・・」と
挫折してしまいがちです。

※第1章をお読みにになったあなたはそんなことないと思いますが。

バスケットを始めたばかりの人が、
いきなりNBAの試合に放り込まれるようなものです。

それは何も出来なくて当然だろう、と（苦笑）

ギター初心者に伝えたい4つのマインドと、7つの実践的練習方法

まずは部活などに入って同じくらいのレベルの人と対戦し、徐々に上手くなって自信を付けていくわけですね。

そして、もっと上のレベルのチームと試合をして「まだまだ上がいるものだ！」と頑張るのです。

ギターもこれと一緒にです。

その曲を難しく感じるかは人それぞれですし、好みだって人それぞれ違います。

ですので、僕がオススメした練習曲があなたに合っているとは限りません。

それに、一曲マスターする度に次の曲を人に聞くのも大変ですね。

僕も大変ですし（汗）

そこで、僕がオススメする練習曲の選択基準は先ほどもお話した通り、**曲を聞いて、自分で弾けるイメージが湧く曲**です。

もちろん、実際に弾いてみたら思っていた以上に難しかったなんてこともよくあります。

バンドスコアを買ってから気づいては遅いので、購入前に軽く立ち読みしてみるのもアリですよ。

ちなみに僕は好きなバンドのタブ譜を立ち読みしまくり、悩んだ挙句やっと1冊決めたりしていました。

高校生の僕にとってタブ譜代2000円は大金だったので（笑）

それからもう1つ、

“コピーできたギタリストの曲を徹底的に練習する“

このような方法も有効です。

ギタリストにはそれぞれクセというものがあるので、
同じバンド、ギタリストの曲なら
それほど難易度がかけ離れていることはありません。

つまり、そのギタリストの曲を1曲でもコピーできたのなら、
他の曲も頑張ればコピーできる可能性が高いと言えます。

※もちろん例外は多々ありますが。

ですので、アルバム1枚分のタブ譜を買ってきて、
そこに載っている曲全てをコピーする勢いで練習するのは
大変効率的と言えます。

まとめると、

- 1、好きなギタリストの中から、弾けそうな曲を探す。
- 2、そのギタリストの曲を集中的にコピーする
- 3、上手くなってきたら、他のギタリストにも挑戦してみる

このような流れで、練習曲を決めてはどうでしょうか？

これならタブ譜を買い漁る必要もないので、
経済的にもお得と言えますよ。

まとめ

この章では、主に練習する際に意識してほしいことを中心にお話してきました。

「コード」「フィンガリング」「ピッキング」など、練習すべきことはたくさんあります。

ですが、どんな練習をするにしてもこの章でお話したことを意識して取り組んでみてください。

- ・ 鏡を見る
- ・ 立って弾く
- ・ 録音する

などなど、特に難しいことはなかったと思います。
(バンドを組むのは大変かもしれませんが)

日々の練習にちょっとした工夫を加えるだけでより効果的に、より早く上達できるのです。

最初は面倒なものもあるかもしれませんが慣れれば自然と行えるようになるはずですので、ぜひ日々の練習に取り入れてみてください。

■おわりに

最後までお読みいただき、どうもありがとうございました。

なかなか独学では気づかないもの、
そして実際に教えていて効果的だと感じたものを紹介してみました、
いかがだったでしょうか？

1つでも上達のヒントを得てもらうことができたなら、
大変嬉しく思います。

感想や質問は大歓迎ですので、こちらまで気軽にメールしてくださいね。

support@guitarstyle.net

奏法的な部分には触れませんでした、
もしレッスンなどに興味がある場合はこちらどうぞ。

[ザ・ギタースタイル](#)

無料で21本の動画にたくさんの音声、画像を使った
ギターレッスンを受けることができます。

また、ギター歴1年未満の方を対象とした
初心者向けの無料メルマガも発行しています。

毎週金曜日にギター上達に役立つ情報などを配信していますので、
よかったら登録してみてください。

[楽しく上達する初心者向けギター講座](#)

それでは、またHPやメルマガでお会いできるのを楽しみにしています。
一緒に楽しくギターを弾いていきましょう！

どうもありがとうございました。

鈴木雄太

ギター初心者に伝えたい4つのマインドと、7つの実践的練習方法


作者：鈴木雄太

メールアドレス：support@guitarstyle.net

メールマガジン：[楽しく上達する初心者向けギター講座](#)

ブログ：[ギターレッスン！上級ギタリスト養成所](#)

ホームページ：[ギター初心者でも楽しく上達するギター講座
ザ・ギタースタイル](#)



**ギター初心者に伝えたい4つのマインドと、
7つの実践的練習方法**